



光注す、円蔵寺

第 102 回目の GIS News! です

立春から 15 日目の 2 月 19 日は二十四節気「雨水」でした。暦林問答集に「雪散じて水と為る也」とあるように、山形でも雪よりも雨の日が多くなりましたが、余寒なお厳しく吐く息の白さに耐えながら、春の訪れを心待ちにする毎日です。

災害復旧・復興にかかわる GIS

前回、緊急時に必要な地理情報システムの話がありました。今回、ご紹介するのは、有名なサイト「新潟県中越地震復旧・復興 GIS プロジェクト」です。2004 年 10 月 23 日に起こった新潟中越地震発災に伴い終了されたプロジェクトです。

<http://chuetsu-gis.nagaoka-id.ac.jp/index.html>

当初、このサイトは、地震に伴い崩れた斜面の情報、閉鎖された道路の情報といった、災害状況、復旧情報を扱っていたサイトでした。しかし、こういった情報のみでは、もしもの時に効果が発揮できないということがわかったのかもしれない。緊急災害の対応は情報と時間が大切です。各機関が持っている情報との連携は、時間がかかるものです。それならば、最初から各機関が持っている情報を統一し、総覧できるシステムがあれば、情報を取り出す時間も短縮でき、その情報を管理することも容易になります。今では、プロジェクト賛同者、賛同機関も増え、このサイトはとても素晴らしいものとなっております。

見えないものを見えるようにする

去年は、災害も多かったですが、近年まれに見る大雪にもみまわれました。屋根の雪下ろし、家の前の雪かきなど今年の冬は大忙しでした。1 つ気になった点があります。せっかく家の前を除雪したのに、道路の除雪車が来て、もう一度やり直しといった経験、みなさんはありませんか？ そんな時は、「除雪車がいつ来るのか分かっていればな」といった思いがあります。「見えないものを見えるようにする」これも GIS の 1 つの長所です。

【GPS 除雪システム】

http://www.toonippo.co.jp/news_too/nto2006/0201/nto0201_15.asp

【バスロケーションシステム】

<http://www.ougis.co.jp/ranran.html>

といったものも住民サービスの 1 つではないでしょうか。

次回の GIS News!

今回は、2006 年 3 月 14 日発行予定です。よろしくお付き合い下さい！

Geographic Information System

記事：協同組合山形県地理情報センター 黒田 努 発行日：2006 年 2 月 20 日

